

3月1日 木曜日 小雨 あたたかな晩だ

歌舞伎サークルより葉書あり
宮田さんは今朝早々、ゲブルトで大変だ。
今日は閑である。オフも充分とる。レスタミンを打って佐々木さんの隣もぐり込む。
皆それぞれの悩みがある。
雨は音もなしに、時々舞い込む風は生温い。三時の桜餅に、わづかに彌生気分を味う。そ
うだ節ちゃんのプレゼントを作らなくては・・ところがひけて包みを出してみたがこれと
いうような小布はなく断念する。
又伊藤さんの病気が始まった。つくづくいやになる。岩渕さんもつまらないだろー。
立花さんにへんなうどん粉の団子を御馳走になった。
又入浴しそこないうかうか寝て了って、起きた時は九時半で楽しみにしてゐた八時四十五
分からの勸進帳も終つてゐた。長唄が習いたい。私はバカね。

午後になって入院三人あり。

加藤康子さんだなんて、アッペ(*虫垂炎)、私がつきたいな。

然し残念乍ら、六時頃になるとの事、あきらめて家へ歸る。楽しみにしてゐた節ちゃんの
プレゼント持つて。松坂屋で羊かん、ボーロ、
上中里え沼館さん、天狗と行く。

沼館さんのような着物が早く慾しいな。

何て淋しいんだらう家の中わ。矢張り、来たくないような気がしたのは虫が知らせたとで
もいのかしら、しみじみと母の云分を聞く。

私も少し妹の死んだあの事、自分を考え直して決心しなくてはと思う・・・
殊勝なような又、人身御供にでも行くような気持なり。母がしゃくにさわる。あゝみんな
可あいそうだ。

せめて明日の楽しい事を思つて気分を紛らす。

都電で歸り、気分悪し。

お節句でもつまらない。晝食病室はおすし也、我々は夜小豆飯だけ。

3月4日 日曜日

昨日のユーウツなんか吹飛ばして、さあ今日は観劇だ久々だ。てんでこまいでお弁当作つ
て立花さんと十時頃出る。

何て広い三階でしょう、後悔もなし、下迄見てまわる。立花さんは大して感興もわかない
様だ、今日は始めての事ではあるし、源氏物語も変つた勸進帳もあるので期待したが、そ
れ程でもなし、所々カットして長い幕間で成程初日とはこんなものか。源氏物語の最後の
海老蔵がいゝ、勸進帳は平凡。

暫、助六、歌舞伎らしく華やかで洒落てみて目新しい感じで夢中になってみた。

田宮さんに借りて来たそれこそ望遠鏡はうす気味悪いくらいよく見える。

百円使つて、歸り十一時頃、今夜で五日お風呂に行かず又悪いけど立花さんとこに寝る。

3月6日 火曜日

夜停電、山口さんと格闘する。両方引分けとなる。久し振りにユカイ也。
遂に一緒に入浴せず
一病で彼女の襟足剃ってやる。
九時少し前岩渕さんとユリさんと烈しい風の音を聞き乍らぬるい湯に入る。
昨夕より新井さんなる立花さんのいにしえの友人と其の妹泊る。
半付で当直の立花さん、忙しい。

いつも頭にある母のこと。

今日は病室で私が云わなければよいのに、昨日ヒンちゃんに聞いた事を云って立花さんを恥かしがらせ逆にやられて了った。

あゝ、情ない。人は結局皆信じられないのだ。

だが矢作のバアちゃんはいい人だ、？

小川さんに草餅皆でよばれる。三時半のお茶としゃれ込んで皆でユカイに食い、且つ、笑い、さわぐ。

久保田先生のムッター（*お母さんドイツ語）はきれいだな。湯浅、大川さんの部屋で笑はせた。歸って昨日の電話もあるので我乍ら飽きっぱいのに呆れて、手紙認む。

立花さんは黒水仙を見られなかったそうなの。

天狗にたのまれた三枚の宝くち買はなかった由、アハハ

3月9日

昨夕は不愉快な事があった。

レスタミンをして岩渕さんの隣に寝てもとても気持ち、全身悪し、イスヂリン注射したらこうなるのぢやないかしら、ネボケたり。

晝は中華そばとる。すっかりノビテ了って不味い。

立花さんも勤務今日と明日だけでさんざん笑っても何だか悲しくならないかしら。

退けてから炬燵で寝て了う。立花さんの赤飯は塩がきゝすぎた。田宮さんも富田さんも和服地を買ってきて彼女張り切っている。気ずぬ気楽な身の上だ

ひっそりと淋しく暮らす父母にお小遣を上げに行く私が哀れでもありいぢらしい。

それにしても同じ年の頃（*母親のことか）の自分を考える馬鹿馬鹿しい。

己れを殺したぎせいと忍従の明け暮れ。

少し自由になると我儘になり放縦に流れ、人の羨望、しつと。私も考え直さなくてわ。でも寂しい。敬愛寮なんていやだ。

一人の娘を自分等ばかりに儘（*尽）させ満足するのだろうか、思えばみな・・・

私はおもしろいからオールドミスになるかもしれない。

お母さん、お母さん！

十一時出、松坂屋に行く。
立花さんや酒井さんの話を聞いて婦長の冷淡なものには呆れ、又悲しくなった。……
家え泊って来るつもりで三時迄に明日のお弁当作って了い二人に頼んで小雨の中を広瀬さんと日本橋迄。
高島屋で源氏物語展をみる。美しく上品で潤いがあるが、あの頃でも貧乏人はやはり汚ない衣をまとい千切れた草履を引きずって垢だらけの着物だったのだろう。人形の紫式部はとても清らかで美しい。
衣装の立派なのに不思議な感じがした。
たそがれ初めた銀座の雨の中を複雑な気持ちでスバル座迄歩く。たそがれ天使、金原先生ははぐらかされるような時がある。秋葉原より家路に向う。平凡なり。

3月11日

最後の明治座立花さんと二階横にて楽しくみる。
賣店は賑かなり。とうとうフンパツして了った。
芝翫の政岡思ったより落着いて老けてゐた。
染五郎の素直さ、行儀のよさ頭も良いだろう、オヤジに似て。そのオヤジも勘三郎と大活躍。
身替座禅は実に愉快でファンを喜ばせた。
九時終演日本橋迄歩く。
嬉しい物がふえたかわりに財布の中を寒風が吹抜ける。コセコセ考えるより何とかなるだろう……
深夜勤ム、何事もなし。矢作小母さんは矢張り頭が少しへんらしい。当にならない話もある。

3月12日 月曜日

深夜退けて来て田宮さんとこえ入る。
小母さんより手紙あり。困ったな。
彼は手紙よこしたが、知ってか知らずか。

3月13日 火曜日

準夜で二時半邦楽の時間に起き出す。
山口さんに大橋さんはうるさいね。広セさんは口が悪い。今夜はひどい風だ。
準夜はいゝもんだな。寝られるし朝も寝坊出来るし。立花さんはあったかい。
寮長は北村さんださうな。あの若年寄の小利巧のうぬぼれは一体何をするつもりだろう。
十四日 義理もあるし返事出す。風烈し。
立花さんにとても良い本貰った。嬉しい。

私はオフです、レスタミンを注射して寝ます。
久保田先生、淋しそうな。

明日二年生試験、后藤さんと代って上げましょう。親切の押売りは禁物、準夜する。
今夜は静かだ。滝沢氏がへんで久保田さんがユカイなだけ。岩淵さんと一緒に十一時お部屋に歸る。

よく寝て、明日は十一時〜二時迄居てデパートにでも行こうかな、ゲル（*現金=gel
ドイツ語）もないのに。
夏みかんはうまい。

四月六日早朝記す。書き乍らまざまざと当時がよみがえってくる。回想録

立花さんが朝の寢覚めの床でクスクス笑ってる。私は気が付かずに平気で伊藤さん達としゃべってゐたら富田さんも笑い出した。

アッしまった。昨夕書いた此の日記を見られて了った。
私とした事が、あゝ恥かしい。

昨日三時間オフ取った分、十一時〜二時まで居て退ける。直ちに松坂屋え、サテ何にしよ
うかな。

此の間とても好いと思ってみたサロン前掛はもうあの場所になく、一階の片隅に一寸ある
だけ。

あゝ残念、買いたいと思う時に金はなく。・・・

半衿はもう駄目だし、伊達、羽織の紐もヘンだし高いし。

半衿をみるのに夢中になってたらポンと肩を叩かれパツと見上げて、ギクツとした。立花
さんだ、今の今其の人の事を考えてたのに。あゝ驚いた。気取られないかしら。

酒井さんも一緒、帯を探してる。私も立花さんもみたがどうも気に入ったのがない。着物
にきめて、酒井さんと二人でてんやわんや、みると立花さんも何かみてる。三人一緒に居
て皆それぞれ違った気持、オカしいったらない。酒井さんのみたてで二つ買った。いつの
間にか二人は居なくなつて私一人になつて了った。

閉店のベルが鳴る。上ったり下りたりして結局、眞白のサロン前掛にした。
貧弱かしら。でも寸志ですもの、二百円也。

二人は黒水仙に行ったのだろう。
たそがれ初めた上野の通りを下駄ばきにボサボサ頭オーバーに入れて寒々としたよう
な又嬉しいような気持で歸途につく。ポケットに入れる手紙書く。我乍ら思いつきよし。

今日は彼岸の中日出番なり。日比野さんと食べたボタ餅（オツと后っちゃんも）は美味かった。少し水っぽかったか。彼女も体格がいゝから食べるな。クランケはあまり甘くないお稲荷さん。

佛さんに持つてくつもりで取替えたのを結局みんな自分で食べて了った。立花さんと沼館さんは新橋演舞場行、そのお稲荷さんの方がよっぽどおいしい。

これで銀座も見納めになるだろう、ゆっくり行つてらっしゃい。

何だか行きたくなくて三時に退けてもとうとう家へ歸らなかつた。

大変だ、私の押入に立派なプレゼントのアイロンが入ってる。わあうれしい、けど悪いなあ。

消灯後の押入れの前で立花さんと笑つて交換

オフの時間立花さんのコンモー（*懇望）により佐々木さんをお願いして日本橋え、三越で滝沢氏のお返し、テール掛をみる。八百円也。気に入ったの買えたが、さて立花さんの良い着物はたくさんあるが中々これがいゝと思うものはない。私の事心配しいしい白木屋休みて高島屋え、此処も同じ、いゝものは一万円から、紋織お召もいゝな。時計とニラメッコして地下でかけた電話は新田さんるす。私だけ電車賃貰つて先歸る。

今夜は送別会、白井さんは休暇で居ない。佐々木さん達と一病で七時過ぎ迄待つ。もう御馳走が待ってるのに立花さん仲々歸つて来ない。雨だ。

酒井さんは当直で、立花さん松坂屋で買ったそうだ、紋織お召。みんな赤系統のばかり。伊藤さんは又、又けなす、バカ、だな実際

七時半始まる。立花さんも酒井さんも改った。

サイダーが一ダース、当麻さんは好いオヤジ。

爆笑、バク笑。おすしもおいしい。ミルクがヘンだ。

立花さん好きな餅菓子一つも食べずともするとベソをかきそうになる。酒井さんと二人で勸進帳を一席、私は筋書き迄持ち出して。

九時半頃散会。小雨止んだばかりの夜の街を立花さんのお供して荷作りの材料買いに行く。ゴザをかゝえて仲好く二人で歸る道。

共に歩くも今日限り、あゝ悲しい。泣きたい泣きたい、

だけど立花さんも泣虫だから往来では泣くの止そう。

暫く一病でサイン帳にサインする。

今夜が最後だというのに、立花さんが話かけても私はろくろく返事もせず眠くて眠くて仕方なかった。

寝つかれないらしい。

いよいよ今日はお別れ。長島の小父さんと荷作りに大変
オフに急いでおべんとう作る。海苔巻の芯は、玉子焼とデンプと青い漬菜。それに玉子の
おすし。

きれいだ。折詰にしたところは春の野のよう食べるに惜しい、眺めていたい。

それでも充分出来た。小さく切って並べて三箱、包み紙もお箸も入れて、昨夕のすし折が
早速役に立った。それからもう一箱は妹え。

八人でしゃ真とる。みんな落着かないで七時頃病院に別れを告げる。婦長さんとも病室の
人とも。二病でまだサインしてる。みんな玄関迄送って出る。サヨーナラのくわん声が宵
の星空にひびく。

伊藤さんはしつこいなあ

十二人で東京驛え。話し乍ら待つので飽きない。

改札終ると私はボストンバック一つもって列をはなれた。

良い席を見付けて上げたくて此の前みたいに。だけど一人になると又涙がにじんで来て困
る。

宮園さん酒井さん乗り込んだ。みな窓口に放列して私が出る幕ぢゃない。顔を出さないで
いたら

あ、きつと私の事見つけてるんだ此方をみた。

もうだめ、だめ、泣けてくるんですけど、加藤さん、と云う岩渕さんに顔をそむけ乍らず
つと前の方に歩いてく。我乍らさぞ面白い顔してるだろうと思う。

もう恥も外聞もない。泣けて仕様がなないんだ。

十分、五分、三分、二分、一分、発車は迫る。時計の針がボーとかすんでみえなくなる。
ベルが鳴って、見送りの人々の別れの声と共に汽車は滑り出した。

涙で光った目を上げて立花さんの乗った宇野行の列車を待つ、宮園さんがかけてくる。あ、
立花さん、サーッと窓に寄って手を差しのべた。

もう立花さんは泣き出して両手を交互に目に持って行く。

握手も出来ない。ぐっと腕をつかんで汽車と一緒に走った、走った。だがもうだめだ、追
っつかない。

手をはなした。ハンケチを振る立花さんの泣顔が

あゝ、あゝ、くっきりと白く小さく、小さくなって行く。

やがて人混の影になって見えなくなった。

汽車の行ったあととは静かだ。黒い空虚なレール、私は心の中に大きな穴があいて了ったよ
うな感じだ。

一人で下を向いた儘さっさと省線のホームに行く。

皆に泣顔を見られたくなかったからだ。

車の中でも酒井さんはじつと考え込んでるみたいだ。

私にもいくらかわかるような気がする。伊藤さんの隣え窓越しに月を眺め乍ら寝る。
もう何も考えまい、思うまい。

3月24日 土曜日

勤務してても力が抜けたようだ。張合がないと云おうか、お部屋に歸っても立花さんの姿は見え、形身の机がポツつり、押入れにフトンがひっそりとあるだけ。じっと思う。もう一生会えないかも知れない。退けてもボンヤリして家へ行くのも忘れ、とうとう夜になって了った。やっと正氣に戻って、昨日作ったおすしを持って立ち上がる。母や保ちゃんに又おいなりさんかい、でんぶかいとひやかされた。泊る。あったかい。通勤の話が出る。嬉しいと悲しいとムジユンした気持あり

3月25日 日曜日

岩渕さんと約束があるからと味噌汁を啜った。九時前松坂屋開く前、立って待つ。下駄ばきも何のその、公衆電話で彼女の可愛い声。待ち遠しい、金八十円也を拂い十時〜六時まで楽しもうという訳。能衣装は立派の一語に儘きる。踊はすぐくうまいのと、モダンなのと魅力的なのとみるも気の毒な程まづいのがあって面白い。晝の休憩に彼女の持参したお米で地下でおすし取りかえる。おいしいね。岩渕さんに悪いような気がする。彼女今日は江の島え友達と行く筈だったのに。……。予選合格結果を物好きに聞いて眞暗になった外に出る。黒田節がもう口について出る。帰ってコタツに入る。岩渕さんのパンを大分平げて了った。今日は却って彼女に散財させて了った。御免ね。

今週はユカイに勤務。若い者ばかりで。だが吉田さんが一寸気になる。オフと替って貰って定期で王子に行く。待てどくらせど来ぬ人を尋ねて、包みを持って、初めてコート着て、(白衣の上え) 診療所の河野さんをお願いする。おとなしそうな人、滝沢さん。電話を又かけてよこして。其のお気持、よくわかります。

ネル、行李、枕、ガチャネ申生地

靴(ラバソール 夏サンダル)

浴衣十反(夏帯下)、×、晒(ばん) 木綿、シーツ、シーカーズ

セーター5、呉5、

生地、そばがら、寝巻(木綿、浴衣)

枕、座布団、×、シーツ

晒、ネル、浴衣、銘仙羽織

3月29日

いつだったか照田さんによばれたコーヒー天狗も来て飲んで四人でおいしかった。今日は二年生卒業式で日比野さんと代る。八時半から十一時迄、昨日たのんだ靴とりに行く。七十円也。

丹念に磨いて箱に納めた。こわれサンダルも。
ミサちゃんは小さいな。二人は何事もないが私は淋しくて仕様がな。彼女の好きなりンゴ買う。

一人で驛え行った日 3月30日 金曜日 晴

荒井さんの小母さんわざわざ一病迄面会に来た。
暫くぶりで見ると顔はやつれてはいないがあまり顔色よくない。頬のうす赤いはまた頬紅かしら。

今日は風が強いのに。お茶出して皆で笑うのを聞いて、玄関に送って出る。ア、困る困る、とうとう来て了った。

其の話、私はわからない。わからないあー
夜、山口さんを誘って王子えブラブラ、迷える子羊よ、易のランプはない。

プールの傍に何分間もじっとしていると死にたくなって涙が頬を傳う。
山口さんおすしを持って雨の降る中野崎さんの見送りに東京驛え、大へんだ。

七時半出勤、十一時半過電話かける。
本当に悪いんですけど、こうするより仕方がない。
一時退けても何もするのいやでボサツとしてる。
ラヂオ中継はかたばみ座、御存じ梅の由兵衛。
やっと身仕度して御園生さんと松本さんに連れられて育虹会場え。大久保さんと松本夫人はい、着物だな。月ポ先生も歌舞伎通らしい。
来て良かったと思った。勉強になるし楽しいし。
少し固苦しいがなれば足もしびれなくなるだろう。
手洗は、いにしへの栃木え旅行した時父も母も妹も私も下痢して困った、宿屋のに似て、うす暗い電灯も情緒がある。
歸り鶯谷より家え。
保ちゃんだけ。父も母も佐倉の芳江ちゃんを映画みせて連れてった由、兄が成田土産の羊かんを持って歸って来た。又私は意気地なく泣いて了って何も云えない。兄さんのバカ、バカ、バカ